

学校教育目標

ともそだち

学校の姿

- 児童の姿
 - ・素直で課題にまじめに取り組むことができる。
 - ・体験的な活動に意欲的に取り組んでいる。
 - ・より一層友との関わりを大切にしていくな姿を期待したい。
- 地域・保護者の方々の様子
 - ・地域・保護者ともに協力的である。
 - ・地域素材を生かした探究的な学びを評価し、支えてくれている。
 - ・責任感を持って自分の役割を果たしたり、思いやりをもってかかわっていく姿を更に期待している。

ともに学び、認め合い、未来を創る子ども

願う子どもの姿（合い言葉）

- ともに学び合う「できた・わかった・ひろげよう」
- ともに認め合う「いいね・ありがとう」
- ともに生きる未来を創る「やってみよう・つなげよう」



全校研究テーマ

「できた・わかった・ひろげよう」
が生まれる授業づくり
～城南スタンダードの構築
(学習のUD化)～

ともに学び合う

「できた・わかった・ひろげよう」が生まれる授業

- 城南スタンダードの構築
 - ・基礎基本の確実な定着を目指した学習のUD化
 - ・伝え合い、思考力・自己表現力を高める授業の実践
 - ・ふりかえりの場から生まれる学びの積み上げ
 - ・個に寄り添った支援・チャレンジタイム
- 教科担任制による授業の質の向上
- 地域に学ぶ探究的な「すわっこ学習」、
相手意識に立つ「ものづくり科」の充実
- 「すわっこ学習」「道徳」「国語」「算数」を中心とした積極的な研修の場（ICT活用）
講師を招聘した職員研究会の設定

小中一貫教育へ
に向けた重点活動

- 相手に伝える挨拶
- ともに響き合う歌声
- 自分の心を磨く清掃

ともに認め合う

「いいね・ありがとう」が行き交う学校・学級

- 分かりやすく安心できる環境づくり（城南UD）
- 様々な経験を積むことから生まれる自己肯定感
安心して自分を発信できるペア学習、グループ学習
受け入れてもらえる経験の積み重ね
- 自分との意見・立場の違いを理解する柔軟性
縦割りともペア活動・探究的な「すわっこ学習」
道徳教育の充実・自他を大切にすることへの人権感覚
- ルールや約束を大切にすることの学校生活
- いじめ・不登校の未然防止
きめ細かく迅速な対応

諏訪市の重点
未来創造「あい」プラン

- 「学びあい」プラン
 - ① 学びのイノベーション
 - ② ふるさと学習の実施
 - ③ 諏訪版キャリア教育・ものづくり教育・算数数学教育・科学教育の充実
- 「認め合い」プラン
 - ① 不登校減と未然防止
 - ② いじめ未然防止
- 「支え合い」プラン
 - ① 早期からの相談、支援体制の整備
 - ② ノーマライゼーションの考え方による特別支援教育の充実
- 3つの重点活動
 - 読書活動、読書会活動
 - 地域と一体となった防災教育、安全教育
 - 人権、平和教育の充実

城南小PTA活動

ともに生きる未来を創る

「やってみよう・つなげよう」と動き出す子ども

- 問題を解決する力を育む授業の実践
「ふりかえり」から生まれる社会と自分のかかわりを見つめる目、課題を解決する経験の積み重ね、学んだ成果を表現していく発信力
- 地域に生きる自分を自覚し、地域に学ぶ
すわっこ学習・ふれあい講座・ふれあいタイム・ものづくり科・各種ボランティアとの交流

小・中の連携
幼保小の連携

人に学び ふるさとに学ぶ 信州型コミュニティスクール

- 城南ふれあい講座の実施 ○城南ふれあいタイムの実施
 - ・学習ボランティア・ふれあい農園ボランティア・城南クラブ
 - ・読み聞かせボランティア・安全ボランティア・環境支援ボランティア等

長野県の重点

「学び」の力で未来を拓き、夢を実現する人づくり

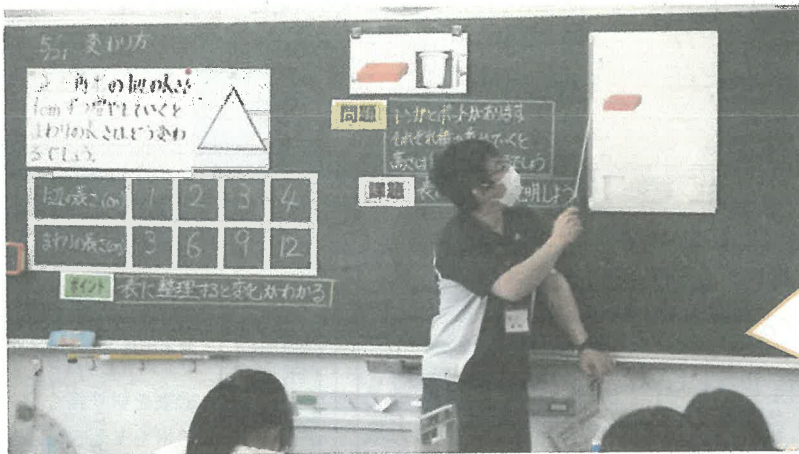
1. 未来を切り拓く学力の育成
2. 信州を支える人材の育成
3. 豊かな心と健やかな体の育成
4. 地域との連携・協働による安全・安心・信頼の環境づくり
5. すべての子どもの学びを保障する支援
6. 学びの成果が生きる生涯学習の振興
7. 潤いと感動をもたらす文化とスポーツの振興



「まなボード」を使った学習
 友だちと考えを共有したり、視覚的に整理したりするために、「まなボード」を使ってペアやグループで話し合い、「できた」「わかった」「ひろげよう」が生まれる授業づくりをめざしています。

＜すわっこ学習の充実に向けて＞

地域を題材としたすわっこ学習では、それぞれの学級が身近な話題から題材を設定し、人・もの・ことを深く学ぶようにしていきます。本年度は、地域を学ぶ機会として、希望する職員が休日に集まり、私たちの住む地域を歩き、地域を知るための研修を実施しました。



＜教科担任制の実施＞
 5・6学年では、昨年度より教科担任制を実施し、授業の質の向上を目指しています。教科担任制では学級担任だけでなく、学年職員全員で子どもたちを見ることができるといったメリットも感じています。

＜信州型コミュニティスクール＞

城南小は、信州型コミュニティスクールに関わるボランティアの方々に支えられ、様々な学習や活動が成立しています。写真は5月から再開した「ふれあいタイム」の様子です。これは低学年を対象に、休み時間を利用し、昔の遊び等で地域の方と交流を深める時間です。



四賀小学校 令和3年度 学校づくり発表会資料

令和3年5月26日(水)

<学校教育目標>

志高く (大きな夢を持って自己実現)
大きな心で (思いやる心、支え合う心、慈しむ心、許す心)
人のために (奉仕、感動、責任感、自主判断と行動)

<めざす姿>

心豊かな児童

- 1 学ぶ楽しさ、乗り越える楽しさを見だし生きる
- 2 ねばり強くやりぬく、たくましく生きる
- 3 心身ともに、清々しく生きる

重点目標

キーワード **みがく**

【知恵をみがく】 基礎学力の定着と課題解決学習への取り組み
【心をみがく】 「思いやる心」「正直な心」「粘り強い心」や学びに向かう人間性
【体をみがく】 健康な心と体を育てる健康教育、食育、勤労生産活動、中核活動

【未来創造「あい」フラン】(諏訪市の学校教育)

1 **学びあいフラン** 学力向上、体力向上

【知恵をみがく】 基礎学力の定着による学力向上への取り組み

【体をみがく】 健康な心と体を育てる健康教育

(1) 授業力向上

○学びの基礎を支える活動の充実

・業間ドリル・MIMを使った読みの指導・朝読書

○振り返りの充実

・授業の終末5分間を振り返りの時間として位置づけ、自分の言葉で書く習慣の定着

○家庭学習の充実

・教科学習とリンクした家庭学習

○学年担任制、教科担任制の試行

(2) 重点研究：「総合的な学習の時間・生活科」「体育」の推進

(3) 総合的な学習を軸としたカリキュラムマネジメント

教科横断的なカリキュラムマネジメントを行い年間の探求の過程を見通す

(4) 自己課題に基づいた一人1時間の授業公開

(5) 三観点を意識した授業展開。板書計画(フラッシュカードの活用)。特に、「振り返り」に視点を当ててさらに意識づけていきたい。→ 深い学び(ホワイトボード等の利用、工夫等)

(6) 体力向上【体をみがく】健康な心と体を育てる健康教育

・全校体育の充実や縄跳び、異年齢集団で取組む運動工夫の継続。

・児童会活動；体育集会や休み時間の全校レク、四賀小ギネスで異年齢でかかわりながら体を動かす活動。

自分の体と健康を知り、心と体を育てる

⇒歯と口の健康づくり教育・体力づくり・食育

(8) ものづくり教育とキャリア教育及 【心をみがく】【ふるさと学習】

・「相手意識」をより深く意識したものづくり教育へ

・外部講師、地域講師の活用

・地域教材、体験的学習による一人ひとりに身につく「ふるさと学習」

(9) 外国語活動と外国語の充実【知恵をみがく】

2 **支えあいプラン** 特別支援教育の充実

【知恵をみがく】 基礎学力の定着による学力向上への取り組み

【心をみがく】 「思いやる心」「正直な心」「粘り強い心」を育む相手意識

(1) ユニバーサルデザイン化の実践

(2) LD等通級指導教室運営

(令和3年度年度当初の通級児童予定数：自校22名 市内校児童10名 計32名)

児童の実態に応じて週1時間～週8時間程度の通級可能な範囲で、曜日や時間帯を保護者・学級担任と相談の上設定する。通級児童に対する、ビジョントレーニング、感覚統合トレーニング等、より専門的な適応指導を行う。SST等の取り組みを工夫する。通級で学んだことが、セッションの記録、連絡ファイルの作成により自校に帰っても担任や保護者による支援につながるようにする。必要に応じて教育相談を実施する。

(3) かしわ(知的障がい児学級5名)、なかよし(自閉・情緒障がい児学級2;16名)にて運営
自立活動の年間を通した中核的な位置づけ

(4) インクルーシブ教育へ向けた取り組み

3 **認めあいプラン** 不登校減、いじめ根絶

【心をみがく】 「思いやる心」「正直な心」「粘り強い心」を育む相手意識

(1) 不登校対策

・毎日の出欠状況・子どもの様子の確認。児童によって担任に加え教頭による家庭訪問やSCによる相談等、対応の継続。

(2) いじめのアンケート調査を実施し、いじめの実態を把握して対応を検討、実施。

(3) 市指導主事との連携、SCとの連携を一層密に対応していく。

(4) 中学校との連携を含め、児童会を中心としていじめ撲滅に取り組む。

・「いじめストップ委員会」を中心とした集会、交流活動。

4 **【3重点】**

(1) **心の教育と道徳教育の充実** 【心をみがく】

学校教育の基盤である学級経営の充実

児童一人ひとりの心の安定した場の保障(「望ましい教育の場づくり」)

① 自己を安心して表出できる学級経営

② 具現化のためのめざす職員集団

・全員で子どもを育てる職員集団(課題の共有化 連携体制)

・心を開き、切磋琢磨する職員集団

③ 家庭・地域との連携

④ 特別に配慮を必要とする児童へのかかわり(心身の健康につながる職員理解)

※ 「凡事徹底」当たり前のことを当たり前でできる

※ 歌声の響く学級、学校の継続を

※ 「あいさつ」互いの目を見て元気に

※ 「そろえる」(靴をそろえる。〇〇をそろえる)

(2) **読書活動・読書会活動** 【知恵をみがく】 【心をみがく】

・朝の読書や読書ボランティアの定着。姉妹学級での取り組み。児童会活動の充実。

(3) **地域と一体となった防災教育・安全教育**

・「信州型コミュニティスクール」「四賀の子どもの安全を守る会」の充実。

・「PTA主催夏祭り」防災テーマなどに実施【土曜学習】

PTA研修 分科会 四賀小学校PTA「PTA楽しい体験型夏祭り」

・「ちょボラ通信」の活用。「下校中災害時避難訓練」の実施。

5 小中連携【新学び合いプラン、ふるさと学習】

・南中学校区三校連絡会の一層の充実。学習の基本、家庭学習、生徒指導など。

6 綱紀肅正と職員研修の充実

・定期的な事例研修。校長による研修。・職員研修係による研修の充実。



令和3年度 諏訪市立豊田小学校グランドデザイン

諏訪市の教育理念
未来創造「あいプラン」
ともに学び ともに育つ
未来につなげる

【学校教育目標】
よく学び よく遊び 心身ともに健やかな子ども

<目指す子どもの姿>

自分の考えを持ち学びに没頭する子ども 共に学び合い高め合う子ども あきらめずやり遂げる子ども

希望や夢をもち未来を切り拓いていく力 つながり「^{えがお}笑顔」が広がる学校

魅力ある学び

～「生きる力」につながる
確かな学力～
◇「やってみたい」「考えたい」を
原動力に 問題解決の力をつける
◇身につけた力の実感・活用
◇生活科・総合的な学習の時間の充
実 身につけた力の活用
教科等横断的な指導

かかわりの中で発揮される
気づき・発見・豊かな感性

◇ふるさと学習・交流・西山三校
・地域のひと・もの・ことに触
れる・かかわる学び
触れる 感じる 考える
働きかける よさの再発見
◇創り上げる特別活動
発想力・企画力 相手意識
誰かのために 役に立つ喜び

心・身体との対話

◇困難にも負けないたくましく
健康な心と身体
・健康的な生活習慣の定着
・健康教育・食育の推進
◇自ら生み出し創造する生活・活動
・体力向上（マラソン等）
達成感・自信、次への意欲

<心を育てる三本柱>

○心がつながるあいさつ ○心を磨く清掃 ○心を鍛えるマラソン

自分も他も大切にできる 豊かな心と思いやり

◇異年齢活動
・つながる楽しさ・難しさ
・学び・気配り
つながる みとめる 受けいれる
◇相手意識に立ったものづくり科
キャリア教育
◇自分と向き合い心を豊かにす
る読書・読み聞かせ・本を読む

◇いのちの教育
・防災・安全教育
「自分の命は自分で守る」
◇心を磨く道徳・人権教育
・人権旬間
・自他の尊重
「認め合い」「支え合い」
「感謝」

安全・安心な学校

非違行為防止 いじめを見逃ごさない・許さない 人権感覚 整った学校施設・生活環境

地域とともに歩む学校～おらが学校・子どもは地域の宝～
チーム豊田・保護者との連携・協働

学習支援 クラブ支援 とよだっ子未来探検隊 さくらの会 花とみどりの会 子ども見守り隊

＜合い言葉＞は「チーム豊田」

学校・家庭・地域が力を合わせ、

心身ともに健やかな子どもの育成を

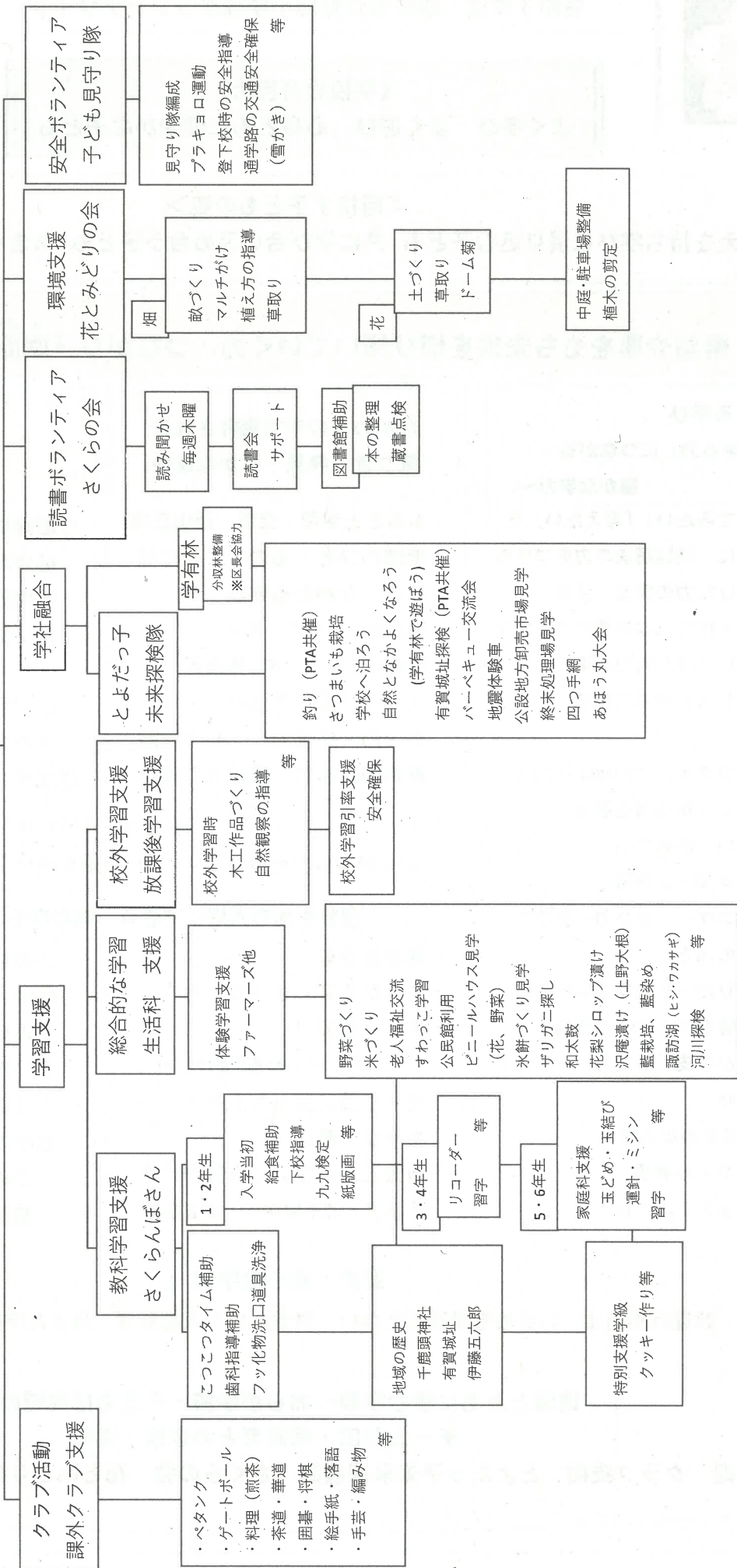
豊田小学校

PTA

信州型コミュニティスクール
コーディネーター

地域の子どもを守る連絡会

チーム豊田運営委員会（年3回）



学校づくり発表会資料

諏訪市立中洲小学校

1 「いのちの教育」を通して学校教育目標の具体化を

中洲小学校の学校教育目標は、「たくましく心温かな中洲の子」です。「たくましく」には自ら課題に取り組み自らの力で解決していく粘り強い姿が、「心温かな」には相手意識に立って行動し支え合い共に伸びようとする共生の姿、そして、「中洲の子」には地域の自然に思いを寄せ、地域の人々と関わり中洲の一員として生きることを喜びとする郷土愛の姿が表現されています。目標に込められたこれらの思いや願いを具体化していくためには、①子どもの生命を守り②豊かな感性と生きるための基礎力を育み③ひとり一人が輝きそれぞれの伸びる芽や可能性が発揮される教育活動を通して自己肯定感を育んでいく営みが必要であると考えます。このように取り組んでいる教育を「いのちの教育」と位置づけて実践をすすめています。自他の生命や真理に自ら触れたり体験したりして、自らを輝かせていく学びの場を重視して豊かな感性と確かな学力を育む教育課程をより一層工夫していきたいと考えます。子どもの学びの道筋に沿って、思考力、判断力、表現力、探究力、情報発信力などを相互に磨きあっていく中で相手を思い自他を大切にすることを育む知・徳・体の調和のとれた教育課程を編成していきます。

2 三つの柱による「いのちの教育」の実践

中洲小学校では、「いのちの教育」の実践に向けた教育活動に次の三つの柱をすすめています。

【自分づくり】<自分が好き>自己を知り自己肯定感を育みながら自らの力を高めていく活動

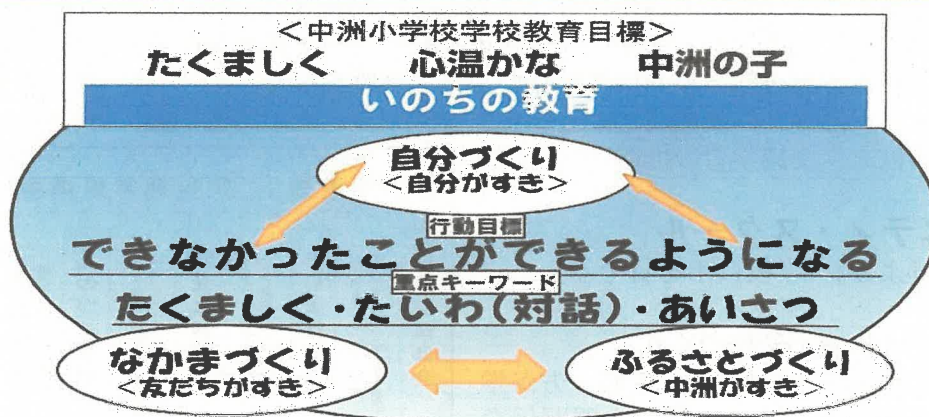
【なかまづくり】<友だちが好き>共に高め合う集団での活動

【ふるさとづくり】<中洲が好き>地域の人と自然との触れあいを通してふるさとへの思いを育む活動

これら柱をもとに、学校教育目標具体化に向けた活動を企画・構想・実践していきます。

3 「いのちの教育」実践の内容

(1) 学校教育目標と教育活動との関連



(2) 重点キーワード たくましく・たいわ(対話)・あいさつ

「たくましく」は、学校教育目標の一番最初にある言葉です。自ら課題に取り組み、粘り強く解決していくとすること、たくましい力を育むことをねらいとし、身体的なたくましさとともに心のたくましさ、継続して取り組む粘り強さ、相手を支える言葉をかける勇気や目的に向かってじっと待つこと等々、様々な場面でたくましい子どもを育てていきたいと考えます。

「たいわ」は、深い学びの実現に向け、授業中においては自分との対話・対象との対話・友達や教師との対話を大事に進め、また、地域の人・もの・こと、自然から学ぶ対話を大切に、各教科、総合的な学習の時間、道徳教育で地域素材の開発もすすめていきたいと考えています。

「あいさつ」は、ここ数年実践し続けているキーワードです。「おはようございます」「さようなら」「いただきます」「ごちそうさま」「こんにちは」「ただいま」などの挨拶をされたときのうれしさ、したときの心地よさ、爽やかさを実感し、互いに挨拶が交わしあえる関係づくりをすすめていきたいと考えます。毎日の生活のなかで、相手の喜びにもつながる「うれしいことば」の筆頭となる「あいさつ」を伝え合いながらつながりを高め、どの子にとっても居心地のよい環境づくりを通して自己肯定感を高めていきます。

「たくましく・たいわ・あいさつ」をこの3つを重点キーワードとし、「できなかつたことができるようになる」を行動目標として「いのちの教育」の実践に励みたいと思います。

4 諏訪市未来創造「あい」プランの推進

(1)「学び合い」プラン（学力向上・体力向上）

- ①主体的・対話的で深い学びの追究、道徳科の充実、英語外国語活動の充実。
- ②2学期制の良さを生かし、通知表を年2回として児童相談や保護者懇談の機会をとり、児童と向き合う時間をとる。継続的な評価を実施することで学力向上を図る。
- ③「いのちの教育」
 - ・理科学習とその他の教科・領域で「いのちの教育」の視点で研究をすすめる。
 - すわっこ学習を推進する。総合的な学習の時間のみならず、地域素材の開発をすすめる。相手意識に立ったものづくり科を核としたものづくり教育の充実
 - 松本大学 教育学部学校教育学科 准教授 澤柿教淳 先生の指導から学ぶ
 - ・一時間の授業の中に自己の高まりを自覚できる「振り返りの時間」を確保し、自分を振り返る「書く時間」をとって表現することで学力向上を図る。
 - ・授業とのつながりを重視した「読書算タイム」「家庭学習」「クリアチャレンジ問題」
- ④体力向上に向けた日々の体育的活動を充実させる。
 - ・大縄跳びやマラソンへの継続的な取り組み・児童会や姉妹学級での交流の推進

(2)「認め合い」プラン（不登校減・いじめ未然防止）

- ①「あいさつ」を中心におくことでいじめや不登校を未然に防ぐ布石とする。
- ②「中洲小いじめゼロ宣言」等を活用した生活の見直し・児童会や校長講話等で取り上げる。
- ③不登校未然防止・不登校傾向児童への日々の対応。
- ④教育相談等の相談窓口の周知(保健室・校長室・職員室等)と実践。
- ⑤いじめ体罰アンケートの実施とその後の児童相談及び外部組織カウンセリング等の活用。
- ⑥連絡帳や電話でのやりとりを想定した児童と保護者への対応指導及び研修の実施。

(3)「支えあい」プラン（発達支援の連携推進・特別支援教育の充実）

- ①認め褒められ安心できる学級づくりとインクルーシブの教育の実践の充実
- ②関係機関や自立生活支援員、原級担任等と連携して、特別支援学級の支援の充実を図る。
- ③通常学級で過ごしている児童・保護者へ、日々の取り組みや個々の育ちをもとに、より適切な指導のあり方や適正就学等の相談を呼びかけて理解を図る。
- ④係・保育園・幼稚園等と外部機関との連携をすすめて来入児の実態把握に努める。
- ⑤副学籍制度の拡充、交流学习の推進

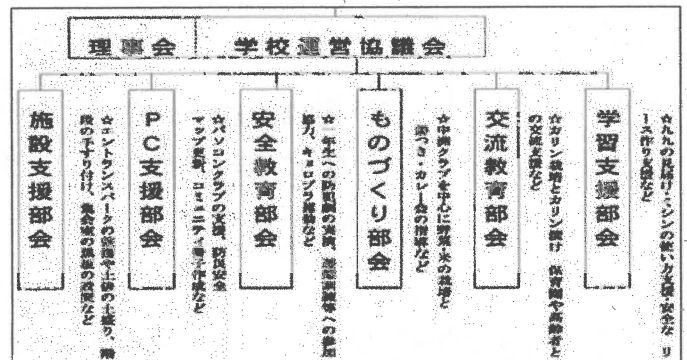
6 コミュニティ・スクール

「学校に出かけよう」「学校に手を貸そう」
「共に学ぼう」

地域と共に育つ学校づくり

子ども・教師(学校職員)・PTA・地域の方が学校運営協議会の活動を通して支え合う人間関係を築き、子どもの力・教師の力・PTAの力・地域の力を高め、より充実して教育活動ができることをめざします。

- ① 学習支援部会：
 - ・ミシン学習で安全な使用の支援
 - ・ローマ字の学習支援・書写学習の支援・理科の学習支援・地域学習講師
- ② ものづくり部会：「中洲クラブ」と呼ばれ、PTAや地域の方々のご協力をいただきながら運営されている子どもたちのための農業体験クラブ。「異年齢集団での活動」「自然や中洲の特徴を生かした活動」「地域の方々と共にいる活動」を柱とし、人や自然との交流・活動を通して子どもたちの豊かな学びを育むことをねらいとしている。
- ③ 交流部会：「6年生と1年生が交流して行うカリンの活動」の支援など
- ④ 施設支援部会：「ふれあい農園」や「校庭土俵」の整備など
- ⑤ PC支援部会：PCを使ってプログラムの基本となる論理的思考(アルゴリズム)の学習支援など
- ⑥ 毎日の登下校の安全指導(キョロブラ活動)をはじめ「1年生の防犯教室」「避難訓練」や「交通安全教室」などの安全指導に関わっての献身的なサポート



令和2年度の湖南小学校を振り返って

①子ども同士のトラブル



何かあったの？
その時、どんな気持ち
がしたの？

気持ちなんてわからない。
そんな事関係ないでしょ！

気持ちを表現できない子

・・・トラブルが起きても解決が難しい

②学習への意欲が出ない



この前勉強したことを
思い出して、問題を解
いてみよう！

この前っていつのことかなあ...
みんなができることをどうして自分は
できないのだろう？やりたくないなあ

聞いたことを思い出そうとしても思い出せない子

・・・困っている子 ⇒ 自己肯定感の低下

令和2年度の湖南小学校を振り返って

学級での人間関係づくり キーワードは“縦と横”

縦 = 教師と子ども

困った人はだれでも助けてもらえ、話を聞いてもらえる学級

定期的に話を聞く(相談時間)、一緒に体験活動をする
支援を必要とする子との関わりは他の子も見ている

横 = 子ども同士

みんなが互いの違いを認めつつ一緒にいられる学級
良さを認め、できない(わからない)と素直に言える学級

体験活動を通して一緒に問題を解決する体験
いいところさがし、協働してワーク

「みんなで協力
するっていいね」



令和2年度の湖南小学校を振り返って

本校児童の良さと課題

良さ

- ・素直で、明るい
- ・みんなと協力することができる
- ・任された仕事を責任もって行える

課題

- ・自分の考えや気持ちを言葉で伝えるのが苦手
- ・学習意欲や学力の差
- ・特別な支援を必要とする子が多い

令和3年度 湖南小学校グランドデザイン

学校教育目標

「湖南で学び、未来を創る子ども」

めざす子どもの姿

- 自分の力で課題に立ち向かう湖南の子
- 相手を認め大切にできる湖南の子
- ふるさとを知り、誇りに思ふ湖南の子

励む子



重点1 自ら学ぶ
わかる授業づくり
授業のユニバーサルデザイン化
授業の約束づくり

重点2 ともに学ぶ
あいさつ
対人関係力
特別支援教育の充実
安心して学べる学校

重点3 地域に学ぶ
ふるさと学習の充実
地域人材の活用
防災教育
キャリア教育の充実

湖南で学び、未来を創る子ども

重点1 自ら学ぶ
わかる授業づくり
・高学年を中心に教科担任制の試行
・授業がよくなる3観点の充実
（「ねらい」「めりほり」「見とどけ」にそった授業改善を行う）
・教材研究の工夫（教材研究に力を入れ、児童にとってわかる授業、楽しい授業を目指す）

授業のユニバーサルデザイン化
・どの児童もわかる、できる授業の工夫
（1時間の授業の流れがわかるように提示する。
日付、授業のねらい、まとめを黒板に明記する）

授業の約束づくり
・湖南小学校の授業の約束の作成
（1年生から6年生まで、共通した湖南小学校の授業の約束をつくり共有する）

重点2 ともに学ぶ

対人関係力の育成
・ペア学習やグループ学習
・対人関係ゲームやエンカウンター
・ソーシャリスキルトレーニング（SST）

安心して学べる学校
・担任だけでなく学年・チームで育てる
・Q Uの活用
・いじめ未然防止、早期発見・早期対応
・不登校の未然防止

あいさつができる湖南小
・相手を認めること（人権教育）の基本とし
てのあいさつ
・児童会によるあいさつ運動
・おとな（教師、親、地域）からあいさつ

特別支援教育の充実
・インクルーシブ教育
・多様性を認める学校
・学びの場の風直し

重点3 地域に学ぶ
ふるさと学習の充実
・湖南地区の森林組合の協力を得て、森の機能を
（水源涵養・土砂災害防止樹木の種類の
・森づくり・山林管理の体験等で遊ぶ。

地域の方から学ぶ
・湖南の伝統やいわれ、身近な神社や石仏などを訪ねたり、
お話を聞いたりして、ふるさと湖南の良さを感ずる。

防災教育
・地域と進める防災・減災訓練をさまざまな体験の場と位置づけ、防災教育を進める。
過去に被災した場所を実際に訪れ、体験者からお話を聞く。

キャリア教育
・相手意識に立つものづくり科の学習をキャリア教育の場と位置づける。



施設隣接型小中一貫校

諏訪市立上諏訪小学校

豊かな心を育み 未来を創る子ども

- 自分の考えを持ち 一人のできる子ども
- 仲間を大切にし みんなのできる子ども
- 上諏訪中学校の生徒から学び 地域から学ぶ子ども

「わくわくする心」を原動力にし

「感動のある学び」を展開します。

- 1 日々の授業改善
 - ・学年会・連学年会の充実
 - ・わくわくアート
 - ・タブレットを生かした教育
- 2 「僕たち私たちの学級」を実感する追究的学習
 - ・生き物に触れて
 - ・仲間と協力して
 - ・地域、そして世界と関わって
- 3 家庭学習の見直し
 - ・小1～中3 まで連続した学びの指針作り

「ありがとうの心」を相手に示し

「感謝の気持ち」を育てます。

- 1 地域に広がるあいさつ
 - ・児童会・校友会・二葉高
- 2 地域遠足・探検・発信・紹介・新しい学区
や地域の歩みを学ぶ活動
- 3 友との学び合い
 - ・歌でつながる
- 4 清掃活動
- 5 ボランティア活動
 - ・諏訪湖清掃
 - ・ニッコウキスゲ



「あこがれの心」を原点にし

「人と関わる活動」を充実させます。

- 1 児童生徒の仲間作り
 - ・児童会を中心とした縦割りの活動
 - ・児童会・校友会共催の活動
 - ・児童会：いじめ撲滅宣言
- 2 行事や地域との関わり
 - ・学校行事・地域行事への参画
 - ・地域講師との学びの場
- 3 キャリアパスポート
 - ・自分の成長を感じるふりかえり活動

小中一貫教育の重点

- 1～5年生を「基礎的な体験活動を通して、基礎学力の定着や活用と個々の興味・関心や個性を伸ばす5年間」と考え「学級担任制（2年ごとの学級編成替え）」を実施します。
- 6年生は「小学校の最高学年」であり、リーダーとして活躍するとともに「学びの充実、伸長、発展期」のスタートと考えます。
- 教科担任制《中学校校舎における学習》
中学校教員：算数・外国語活動・家庭科
小学校教員：数学科・社会科 等

学び合う職員集団



- 児童一人一人に寄り添った関わり
 - ・先生とお話する週間
 - ・教育相談
 - ・児童の丁寧な引き継ぎ
 - ・個別最適化学習・ドリルの時間

- 子どもの姿から学ぶ
 - ・授業公開（中学校と合同をめざす）
 - ・外部講師陣から学ぶ
 - ・合同職員会・合同研究会

- カリキュラムの実践と見直し
 - ・ジョイント・カリキュラムの推進
 - タブレットを生かした授業開発

学校長あいさつ

子どもを中心に据え、一人ひとりを大切にする学校をめざし、子どもたちと、先生方と、保護者の皆さんや地域の皆さんと一緒に、新しい学校の文化を育てていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

上諏訪小 DATA

全校児童数

317人

(R3.5月1日現在) 城北学区 86人、城南学区 38人、高島学区 192人、転入 1人。そのうち新入生は 54人です。

図書館の蔵書数

10,300冊

児童一人あたり 32.5冊。市内の学校図書館の中でも蔵書数の多い図書館になりました。



本部

委員長・副委員長・コーディネーター

読書活動支援 「かじの葉」	学習支援 「ちょこサポ」	地域つながり支援 「わくわく上諏訪サロン」	安全支援 「きよるぶら運動」	環境支援 「上諏訪親父衆」
<活動計画> ・読み聞かせ ・読書旬間中のお話会	<活動計画> ・学級への学習支援 ・ものづくり支援	<活動計画> ・地域とのつながりを大切に した体験講座を企画	<活動計画> ・登下校中の子どもたち の安全を見守る	<活動計画> ・施設の整備支援 ・イベントへの協力

事務局	アドバイザー
事務局長：PTA 会長 広報・庶務：PTA 副会長 会計：教頭 会計監査：前年度 PTA 会計	上諏訪中コーディネーター、北澤区（学校所在地の）区長、学識経験者、 社会教育委員、消防団長、教育委員会及び校長が適当と認める者

開校式 「児童による開校宣言」



4月7日 高島小と城北小、城南小の代表児童が教育長先生より校旗を受け取り、開校を宣言しました。

今 学校のシンボル
新しい校旗を受け取りました
私たちの 夢と希望をのせて
令和3年4月
上諏訪小学校の 新しい歴史がはじまります!

日課表

通常日課			
	5時間	6時間	6年
朝の会	8:15~8:30		8:40
朝の活動	8:30~8:45		中学へ移動
あゆみ	8:45~8:55		8:50~9:35
1校時	9:00~9:45		1時間目
2校時	9:50~10:35		9:45~10:30
業間休み	10:35~10:55		2時間目
3校時	11:00~11:45		10:50~12:20
4校時	11:50~12:35		3・4時間目
給食	12:35~13:35		※3・4時間目は 家庭科 月(6-2) 火(5-1) 木(5-2) 金(6-1)
清掃	13:40~13:55		
5校時	14:05~14:50		
6校時		14:55~15:40	
帰りの会	14:55~15:10	15:45~16:00	
完全下校	15:20	16:10	
バス	15:45	16:40	

水曜日課			
	5時間	6時間	6年
朝の会	8:15~8:30		中学へ移動
朝の活動	8:30~8:45		8:35~9:20
1校時	8:40~9:25		1時間目
2校時	9:30~10:15		9:25~10:10
業間休み	10:15~10:35		2時間目
3校時	10:40~11:25		
4校時	11:30~12:15		
給食	12:15~13:15		
5校時	13:20~14:05		
6校時	14:10~14:55		
帰りの会	15:00~15:15		
完全下校	15:20		
バス	15:45		



児童会スローガン

笑顔で作ろう 新しい学校

諏訪市立上諏訪小学校

〒392-0004 諏訪市諏訪 2-13-1

TEL 0266-52-0101 FAX 0266-52-0100

URL <https://www.city.suwa.lg.jp/site/school/list69.html>

令和3年度 上諏訪中学校グランドデザイン

校訓 真理の追求 自主自律 質実剛健

学校教育目標
自らを拓き、未来を生きる

目指す学校像

自治の気風にあふれ、生徒が判断し、行動する機会が多い学校
高い人権意識のもと、自分や他者を尊重しながら協働して取り組める学校

目指す姿

上中プライド
のもと

【生徒】
言語や情報、技能を使いこなす
感情をコントロールする
目標に向かい専心して取り組む
他者を尊重した主張ができる

【教師】
授業が根幹と考え、道一筋に研鑽する
豊かな発想で、創意工夫する
生徒の目線に立ち、率先垂範する
保護者、地域の方とともに汗を流す

上中 学びのプロジェクト

生徒・教職員合言葉
(校友会スローガン)

「伝(つたえる)」

自律した学び

取組1 日々の授業改善

- ①基礎基本の確実な定着と、情報を活用して伝え合い考えを広げ深めていく活動の充実
- ②ICTを活用した追究により、発信力を向上
- ③「ジョイント・カリキュラム」の開発と小中の滑らかな接続

取組2 自主学習への支援

- ①プランニングタイムの創設、上中タイムとの連動により自主学習を充実
- ②基本的な知識・技能を定着させるための家庭学習、授業とリンクした課題の継続的实施

取組3 諏訪学の一層の充実

- ①諏訪をフィールドにした探究活動(総合的な学習の時間)
- ②諏訪湖や霧が峰など諏訪の自然、文化、歴史などと結びついた学び(各教科等)

社会と結びついた学び

取組1 キャリア教育の充実

- ①本物に触れる上中キャリアメッセなどにより、ロールモデルとの出会いを支援
- ②「相手意識に立つものづくり科」では、「人のために」を据えた展開によりキャリアデザイン構築を支援

取組2 校友会活動への支援

- ①生徒が主体的に活動を企画・運営できるような協力体制、支援の充実
- ②諏訪湖清掃、ニッコウキスゲ植栽活動などを通じた、地域への貢献

<本年度の重点活動>
あいさつ・地域貢献

個別最適な学び

取組1 サポート体制の充実

- ①学級の枠を越えた生徒支援や組織的な学年経営を行う学年担任制(1、2年)
- ②「心の支援会議」を中核とし、外部とも連携した、学習、生活、心理面でのチーム支援
- ③各種アンケートや生活記録、保健室、カウンセラーの利用など、生徒個々の悩みに即応できる相談体制

取組2 学び方に合わせた支援

- ①ICTを活用し、個別の課題に合わせた学習を充実
- ②相談F教室として、自分のペースで学べる環境を開設

取組3 上中アフタースクール

- ①部活動に加えて、槻の木講座を充実させたゆるやかなサークル活動を検討
- ②自主学習ルームを設置し、放課後の学習支援の場として研究

【上中コミュニティ】

学校運営委員会

上中応援団

読み聞かせの会 PTA 同窓会 地域住民など

【人権意識の高揚】

- ・生徒憲章
- ・道徳の授業の充実

評価指標

工夫して自学に取り組んでいる(70%以上) 相談しやすい先生がいる(80%以上)
いじめに起因する不登校生徒(ゼロ) 地域のためにできる活動を考えている(70%以上)



「今回の避難訓練は、3年生になって初めてだったため、緊張した。避難経路を確認して黙って避難できたので、一〇〇点だと思う。6年生も一緒になるので、下級生への思いやりも大切だと思った。（中略）中学3年生として、自分の身だけでなく、他の人（下級生）の身も守れる強い自分になりたい。」

（中学3年生の感想より）

4月16日、小学校6年生と中学生との「合同避難訓練」を行いました。避難経路の確認等、避難の基本を徹底して行いました。終始緊張感のある雰囲気でした。

合同で行うことにより、中学生にとっては「小学生のことをもっと考えながら、自分たちは行動しなくてはならない」という、新たな思い・視点を得ることができました。



学習の中での関わりも生まれています。

先日、中学3年生が、ものづくり科の授業で小学生の意見を聞きに教室を訪れていました。「どんな商品を作ったらよいか」小学生の意見を取り入れたいとのこと。3年生の質問に真剣に小学生も答えてくれます。「どんなものが欲しい?」「う〜ん・・・生活に使えるものがいいです」「値段はどのくらいなら買いたいと思う?」「300円とか500円くらいかな」

チャレンジショップに小学生が多く来てくれていたことに端を発して、このマーケティングを行うことにしたとのこと。作り手の願いと、買い手の思い。小学生との生活によって、このように様々な立場で見方・考え方を養う場が広がってくるのだと思いました。



◎小中学校の理科の先生同士が、指導内容の系統性を確認したり、授業を見合って学びあったりすることもスタートしています。

◎感想記入フォームについて

発表会終了後、感想フォームからご感想をお寄せください。これからの参考にさせていただきます。ご協力、お願いいたします。

URLはこちら↓

<https://forms.gle/efHRKQfxRPcLcuH3A>

QRコードはこちら→



令和3年度 諏訪市立諏訪中学校 グランドデザイン

教育の方針

学校長の願い

生徒主体の学校づくり

～学校・地域・社会の担い手の育成～

【願う学校像】

【具体的な経営方針】

- ① 生徒と共に在る教師
 - ・生徒と教師のあたたかくなつながら
 - ・可能性の芽を伸ばす伴走者
 - ・生徒に委ねる活動の設定
- ② 教師の持ち味を活かした質の高い授業づくり
 - ・教科の核となる単元の決めだし
 - ・若手職員による学びのプロテクトの発信
 - ・諏訪学を中心に探究的な学びと発信
- ③ 教職のプロとして多様性への理解と支援
 - ・スクリーニング会議と継続的支援会議実施
 - ・サポートルームの開設と運営
 - ・生徒理解に基づいた合理的配慮、UD

学校教育目標

明るく、元気で、たのभीい 人間性豊かな生徒の育成

めざす生徒の姿

共感

相手意識を持ち関心を寄せる
友の思いを受け止める

思考力・判断力

粘り強い追究・深い学び
自ら起こす地道な努力

主体性

自ら考え、行動する
自分の考えを表現できる

ともに手を携えて創る
諏訪市の学校教育
未来創造「あい」プラン

「認めあい」プラン
(安全・安心な学校づくり)

「支えあい」プラン
(特別支援教育の充実)

「学びあい」プラン
(学力向上・体力向上)

地域とのつながり

- ・諏訪中CSの活動
(学習支援・環境・読み聞かせ)
- ・地域へ積極的に関わり発信
・気持ちのよいあいさつ
- ・地域貢献活動
- ・HP、学校たよりに
よる情報発信
- ・小中連携での活動

人間関係づくり

教師と生徒のあたたかなつながり

- ・生徒と共に事をなし、その子の可能性や良さを見取り引き出す
- ・その子の願いに寄り添い、生徒の自立に向けた伴走者となる
- ・一人ひとりの良さが活きる学級づくり

誰もが安心できる学校

- ・各学級主催の人間関係づくり集会の実施
- ・一人ひとりが安心できる居場所づくり
- ・個に応じた支援会議、個に沿ったサポートルームの運営
- ・誰とも交わら合う、気持ちのよいあいさつ

多様性への理解

- ・誰もが自分らしさを発揮できるよう、様々な考え方や、多様な個性を受け入れ合おう活動。
- ・自分の考えを伝え、対話を通してお互いを受け入れ、認め合える活動。

学びの充実

魅力ある授業づくり

- ・核となる単元の決め出しと探究的な学びへの挑戦
- ・生徒のから生まれる学習問題、個々の問いを深める追究
- ・自分と対話する振り返り
- ・UDの視点に基づいた見通しが持てる板書
- ※評価アンケート「自ら追究」「対話による学びの深まり」「振り返りによる新たな問いの発見」…70%以上

個別最適な学び

- ・タブレット活用やZOOM配信など、個に応じた学びの保障
- ・個々の学びのペースや学び方に応じた「指導の個別化」
- ・自分の興味関心に応じて課題を設定する「学習の個性化」

学校、家庭での学習習慣の育成と定着

- ・授業と連動した家庭学習
- ※評価アンケート「家庭学習の充実」…70%以上

生徒主体の活動

生徒会活動の充実

～つなげよう、全校の思い～

重点活動 ～新たなひこぼえ～

1. 心を響き合わせ
思いを伝える合唱
2. 他人から学び
自分と向き合う清掃

諏訪中ミライ会議

- *これからの諏訪中のあるべき姿を諏訪中生が考える
- ・生徒の自治による集会の計画・実行
- ・縦割り学級や委員会による諸活動への取り組み

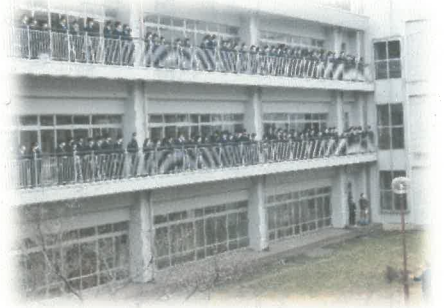
生徒主体の学校づくり

1 生徒会活動の充実 櫛（たすき）～ つなげよう、全校の思い ～

(1) 心を響き合わせ想いを伝える合唱



朝、夕の校舎に響くクラス合唱。自主的に中庭に集い交わす歌声。歌うために表情と体をほぐし、歌詞の意味を知り、口形を学ぶ、コロナ下でも工夫して続ける音楽集会。



(2) 他人から学び自分と向き合う清掃

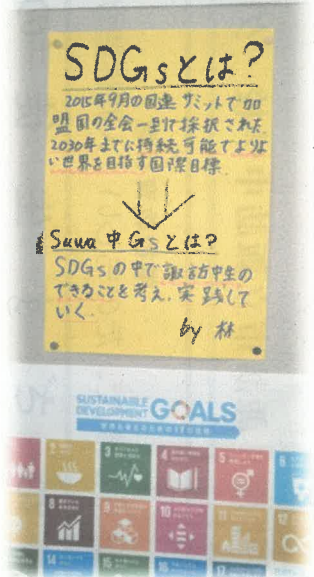
日々の清掃振り返りを通し、自ら学ぶ。先輩から後輩へ姿で伝える清掃の姿。清掃から学ぶ自学清掃。縦割り清掃の実施、他者の清掃から学ぶ「気づき清掃」。

(3) 諏訪中ミライ会議

これからの諏訪中のあるべき姿を諏訪中生が考える。生徒の自治による集会の計画、運営。縦割り学級などで行う生徒会活動。



3/24 2024/1/23 14:19

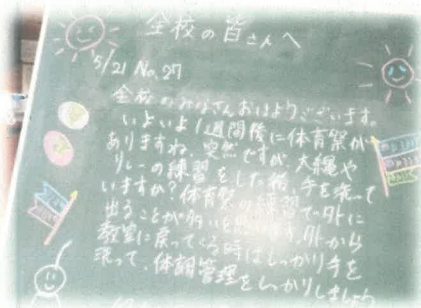


(4) すべての生徒に企画・発信力を

生徒自身の発案から行う図書委員による読み聞かせ。地域の方へ送りたいと始めたマスクゴム回収活動とマスク制作。みんなが楽しめる活動を企画・運営する「〇年〇部主催・ふれあいタイム」の実施によりめざす、あたたかな人間関係づくり。



画・運営する「〇年〇部主催・ふれあいタイム」の実施によりめざす、あたたかな人間関係づくり。

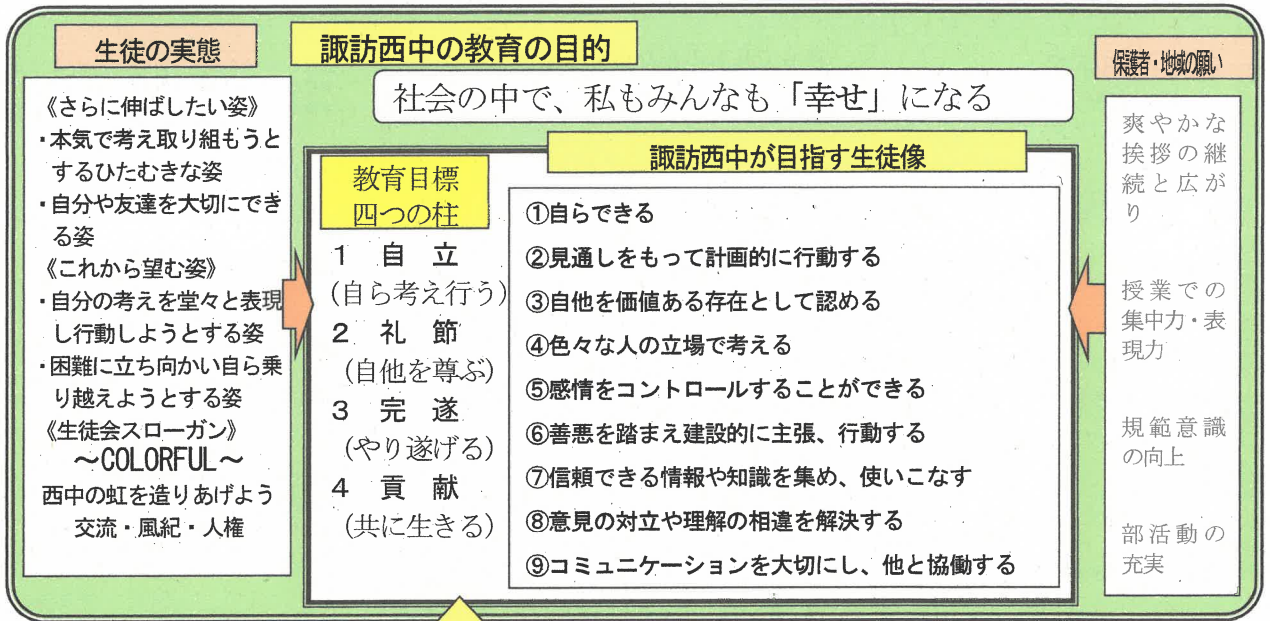


(5) 校内にあふれる掲示物の工夫 あたたかなつながりとメッセージ

「担任の先生の好きなお知らせ」新聞。制服の決まりクイズ出題「生活向上週間」。毎日更新、温かな言葉あふれる生徒会黒板メッセージ。



令和3年度 私たち諏訪西中のグランドデザイン



学校長の願い

自分の力でしっかり立ち、自他の幸せを追求しようとする生徒

本年度の重点

目指す教師像：保護者・地域への約束

- ・子ども一人一人を尊敬し、子どもとともに伸びる教師
- ・生徒への教育愛と使命感をもち、仲間と協働する教師
- ・生徒の目で見、生徒の耳で聞き、生徒の心で感じられる教師（共感）
- ・自己の夢に向かい、果敢に挑戦する教師
- ・常に謙虚さをもち、学び（研究と修養）続ける教師
- ・法令遵守（コンプライアンス）の意識を高める教師

優しさがあふれ活気ある西中

具現化への取組

A 誰もが「わかった！できた！もっと追究したい！」と感じ、力がつく「学び」づくり

- ① 「わかる」授業→「学習問題（ねらい）」「見とどけ」がある授業
- ② 新たな情報、すでにわかっていることを「使い・考え・理解していく」授業
- ③ 友と関わりながら、友に学び、友と学び考える授業

B 誰もが元気に、笑顔で生活できる「居場所」づくり

- ① チームで、早期から、外部と連携しながら支援を行う。
- ② 人権教育・道徳教育を充実する。
- ③ 検査・生徒相談・生活記録から個（多様性）を理解し、全教職員で対応していく。

C 誰もが自主性を発揮し、成就感・自己肯定感が味わえる「時」づくり

- ① 目標→具体目標（具体の姿）→実践→評価（自分の伸びた点を知る）の「時」をつくる
- ② 目標（ねらい・育てたい姿）を明確にし、生徒と共有する「時」をつくる。
- ③ 褒める・認める・しかる「時」を意識してつくる。

学校評価

- 評価者 生徒：前・後期 職員：前・後期 保護者・CS運営委員等：年1～3回
- 評価項目 授業、学力、生徒指導、人権感覚、挨拶、清掃、合唱、読書、生徒会活動、情報・公開等
- 評価方法 生徒アンケート（生活アンケート、学習アンケート）、保護者アンケート（匿名性を担保した保護者アンケート、参観日・行事等）、全国学力・学習状況調査、※CRT検査、定期テスト等で学力向上の確認等

諏訪西中学校

学校づくり発表会

学校目標

社会で私もみんなも「幸せ」になる

困難を抱えている生徒が「幸せ」を求められるように

- ・登校しづらい生徒が「幸せ」を求められるように
- ・学習がしづらい生徒が「幸せ」を求められるように
- ・友達が作りづらい生徒が「幸せ」を求められるように

登校しづらい生徒が「幸せ」を求められるように

- ・外部機関との連携
- ・支援会議の充実
- ・人権教育、道徳の充実
- ・校内中間教室
- ・教室以外での授業学習の試み

登校しづらい生徒が「幸せ」を求められるように

生活の充実 → 「幸せ」を感じる

学習がしづらい生徒が「幸せ」を求められるように

- ・認知機能トレーニング
- ・授業形態の工夫
- ・個別支援の充実

学習がしづらい生徒が「幸せ」を求められるように

わかった、これならできそう、 → 「幸せ」を感じる

友達が作りづらい生徒が「幸せ」を求められるように

- ・場面 場面で他の人の立場で考える教育
- ・道徳や人権教育で気持ちのよい関係づくりに触れる
- ・相手意識に立つものづくり科

友達が作りづらい生徒が「幸せ」を求められるように

気持ちよい反応が返ってきたら → 「幸せ」を感じる。

社会の中で、私とみんなの「幸せ」を求められるように

本校が目指す9つの生徒像

- ①自らできる
- ②見通しをもって計画的に行動する
- ③自他を価値ある存在として認める
- ④色々な人の立場で考える
- ⑤感情をコントロールすることができる
- ⑥善悪を踏まえ建設的に主張、行動する
- ⑦信頼できる情報や知識を集め、使いこなす
- ⑧意見の対立や理解の相違を解決する
- ⑨コミュニケーションを大切にし、他と協働する

③自他を価値ある存在として認める

鳳祭で自他を価値ある存在として認める
→ 大きな「幸せ」

⑨コミュニケーションを大切にし、他と協働する

地域の方に喜んでもらえる存在
→ 大きな「幸せ」

④色々な人の立場で考える

友との関わりで深まる広がる「幸せ」

校外、地域の力をおかりして

社会(地域)の中で、
私もみんな(地域の皆様)も
「幸せ」になる

諏訪南中学校 総合的な学習の時間 ゆめかなタイム

学校教育目標 感謝・協調・創造 夢叶うまで挑戦

総合の時間は、学校教育目標実現の中核的役割を果たす時間でありたいという
願いを込めて…ゆめかな!



R2年度 2年生 追究の様子



体を動かし、頭を働かせ、心で感じる



パソコンで調べて、わかったつもりになっている総合ではなく、
「気持ちいい!すげー!!美味しいー!!」そんなつぶやきから活動を立ち上げよう。
見学先が決められる、お膳立てされた総合ではなく、
自分の問いをもとに見学先を選び、自分でインタビューの許可をとる、そんな総合にしよう。
真面目な南中生が、思い通りにいかない実社会の厳しい現実にあたりながら、
自らが見つけ出した問題を、他者とアイデアを出し合い、自ら解決していく総合にしよう。
とことん体験して、体で味わうことから学びを立ち上げ、諏訪を心で感じる、それがゆめかなタイム。

自分たちで考える学びで、大人へと前進

また、自分達で考えてやるという点で、先生たちが私たちのことを
信じてくれたことに、特に最終的にテーマを追究できたことに、
大人へと大きく前進できたことに感じました。

これからも生徒と共に

人と出会い、優しさに触れ、
厳しさを知り、
誰かのためになれる
自分に気づくことができる生徒



生徒の願うに寄り添い、
知恵を絞り、一緒に考え、
その願いを叶えるために、
生徒を信じて任せられる職員

生徒も職員も共に「夢叶うまで挑戦」できる学校を目指します!

諏訪南中学校教育目標

1 学校教育目標

「感謝」・「協調」・「創造」
夢叶うまで挑戦

学校教育目標は生徒・教職員がその実現を目指して取り組むものであるが、時間の経過と共に目指す方向は変化してきている。そこで生徒・教職員で学校教育目標の方向性を共通理解し、常に意識して取り組んでいくようにする。

校歌にも歌われ大切にしている、学校開校当時の学校教育目標「感謝」・「協調」・「創造」について、本校の教育活動のよりどころとし、心豊かにはつらつとした学校の具現を図っていく。それぞれを次のようにとらえる。

「感謝」 生徒が自分の人生を支えてくれるすべての人やものごとに「ありがとうございます」と素直に思う心。

「協調」 立場や考え方の異なる生徒同士が、互いに譲り合い、認め合い、学び合う人間関係を構築しようとする心。

「創造」 新しい価値を生み出すために、生徒ひとりひとりが気づき考え勇気を持って行動しようとする心。

「夢叶うまで挑戦」は行動目標としてとらえる。「叶える」という結果よりも「挑戦し続ける」という過程に力点を置くようにする。後者の方が本質的であり、実現的である。

2 本年度の重点目標

(1) 本年度の重点目標

人・もの・こと との関わりを深め、自己のあり方を見つめる生徒の育成

(2) 重点目標のための指導

①人間関係づくり

- ・生徒を有能な存在としてみる見方を教師がもつ
- ・学級の人間関係づくりを実践する
- ・わくわくタイム、学年縦割り活動等の質的充実を図る

②学力向上への取り組み

- ・主体的な学習にするために、追究の見通しを持たせる
- ・授業で関わり合う必然性をつくり、学び合う場を設ける
- ・振り返りを通して、学んだことを自覚させる
- ・みんなで歌声を響かせる
- ・道徳教育の充実を図る

③生徒指導体制の充実

- ・「生徒へ寄り添う」をもとに情報共有とチームによる支援
- ・「連携」による不登校支援
- ・「相談の時間」により生徒の声を聴き早めの対応
- ・組織として動く体制を意識する

- ④ ①～③の手だてを通して、生徒に自己のあり方を見つめさせるその見方がどう高まったかを生徒に自覚させる。

(3) 重点活動 凡事継続

- ①「挨拶」 生徒も教師も明るい挨拶を通して、人とのつながりを意識させる
- ②「清掃」 自分の弱さと向き合い、自主自立の心を育む
- ③「読書」 人間の生き方に学び、自己の内面を耕し、自らを見つめる
- ④「歌声づくり」 集団で表現することのよさを自覚する